

小梅保育園 保育課程

保育理念		<ul style="list-style-type: none"> 子どもを愛し、あたたかい心で、子どもの心をやさしく育てていく。 子どもが穏やかに、かつ楽しい園生活を送れるように保育環境を整え、保護者の方との緊密な連携のもと保育を行っていく。 子どもの自主性を尊重しつつ、集団生活の中での社会性や協調性を身につけられるようにする。そして、これらを通じて個々の子どもの成長・発達を促していく。 四季折々の自然に触れ、命の大切さを尊ぶ心を育てていく。 					
保育目標		<p style="text-align: center;">げんきなこころとからだをつくる。</p> <p style="text-align: center;">⇒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分らしく過ごす中で、自分を信じ、何事にも懸命に取り組み、やり通すことの出来る子ども ・社会性・協調性を身につけ、受容する心を持って全てに接することの出来る子ども ・命の大切さを尊び、成長していく喜びを感じる事の出来る子ども 					
保育目標（年齢別）		0歳児 (たんぽぽ組)	1歳児 (ちゅーりっぷ組)	2歳児 (あじさい組)	3歳児 (さくら組)	4歳児 (ふじ組)	5歳児 (ひまわり組)
		誕生から急激に発達を遂げる子ども達の個々の成長に合わせて、保育園が安心して過ごすことの出来る場所であると思えることができ、ゆったりとした環境の中でひのびと生活を、成長の喜びを感じることが出来る子ども	手足の発達や言語の発達が著しく見られる中で、身近な環境に何でも興味を持ち、自分の思いを周りの大人に伝えられる子ども。自分の思いと集団生活の一員としての自制心をバランスよく共有出来る子ども。	自分の思いをはっきりと伝えられ、大人だけでなく子ども同士でも言葉を介し、意思の疎通が図れる子ども。年齢に見合った生活習慣やマナーを習得し(ほぼ自立)、対人関係を構築できる子ども。	幼児クラスの一員となり、友達同士の関わりや保育士との関わりの中で、自我と周囲との関係をよりバランスよく保つことが出来る子ども。自分の周りのあらゆる物に思いやりの心を持つことができる子ども。	基本的な生活習慣が身につく、その上で子ども同士で問題の解決を図ることが出来る子ども。物事に取り組みにあたり、その後についての予測をもって臨むことができる子ども。	小学校への入学に向けて、規則正しい生活習慣を身につけると共に、どのような課題に対しても集中力を持って臨むことが出来る子ども。今までの経験を活かし、予想や見通しを立て、物事の解決に創意工夫をもって対処できる子ども。
保育のねらい・内容							
		0歳児 (たんぽぽ組)	1歳児 (ちゅーりっぷ組)	2歳児 (あじさい組)	3歳児 (さくら組)	4歳児 (ふじ組)	5歳児 (ひまわり組)
養護	生命の保持	<ul style="list-style-type: none"> 生活リズムの形成 健康的で安全な環境をつくり、快適に生活出来るようにする。 一人ひとりの子どもの生活リズムを大切にしながら、生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。 年齢にあった適度な運動と休息をとれるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 他児との関係を築いていく中での安全の確保 食事・排泄・睡眠・着脱・身の回りの清潔への適切な援助 健康的で安全な環境をつくり、快適に生活出来るようにする。 一人ひとりの子どもの生活リズムを大切にしながら、生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。 年齢にあった適度な運動と休息をとれるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 食事・排泄・睡眠・着脱・身の回りの清潔への適切な援助 自らの育ちへの把握と対応 健康的で安全な環境をつくり、快適に生活出来るようにする。 一人ひとりの子どもの生活リズムを大切にしながら、生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。 年齢にあった適度な運動と休息をとれるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児クラスの中で安んじた生活環境の提供 健康的で安全な環境をつくり、快適に生活出来るようにする。 集団生活の中で、一人ひとりの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。 年齢にあった適度な運動と休息をとれるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立 健康的で安全な環境をつくり、快適に生活出来るようにする。 集団生活の中で、一人ひとりの子どもの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。 年齢にあった適度な運動と休息をとれるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校に向けての生活習慣の習得 健康的で安全な環境をつくり、快適に生活出来るようにする。 集団生活の中で、一人ひとりの子どもの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。 年齢にあった適度な運動と休息をとれるようにする。
	情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> 保育者が子どもにとって安心できる存在であることが認識できるような配慮 一人ひとりの子どもに応じて心身共に快適な状態をつくり、保育者との絆を確立していく中で情緒の安定を図る。 子ども自身が愛されていることを実感出来るような関わり方への心掛け。 	<ul style="list-style-type: none"> 人と物との関わりについての理解を深めていくための援助 一人ひとりの子どもに応じて心身共に快適な状態をつくり、保育者との絆を確立していく中で情緒の安定を図る。 子ども自身が愛されていることを実感出来るような関わり方への心掛け。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己主張への配慮 一人ひとりの子どもに応じて心身共に快適な状態をつくり、保育者との絆を確立していく中で情緒の安定を図る。 子ども自身が愛されていることを実感出来るような関わり方への心掛け。 	<ul style="list-style-type: none"> 自我を大切にしたい主体性を育成する中で自己肯定感を感じる事が出来るような働きかけ。 集団生活とのバランスをはかりながら、一人ひとりの子どもに応じて快適な状態をつくり、心身の疲れを癒していき、保育者との絆を確立していく中で情緒の安定を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体性と協調性の安定的共存の中での自己肯定感の醸成 一人ひとりの子どもに応じて快適な状態をつくり、心身の疲れを癒していき、保育者との絆を確立していく中で情緒の安定を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体性と協調性の安定的調和と自己肯定感の醸成 一人ひとりの子どもに応じて快適な状態をつくり、心身の疲れを癒していき、保育者との絆を確立していく中で情緒の安定を図る。
教育	健康	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの世話を喜んでしてもらおう。また、自分からやりたいとする気持ちを表す。 手足や体を動かす、姿勢を変える、移動するといった様々な運動的活動を十分にこなす。 	<ul style="list-style-type: none"> 歩行の確立や手指の発達(体を動かす事を楽しむ) 食事や排泄の世話をしてもらおう中で、自分でしようとする気持ちが芽生える。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な機能の充実に伴い、遊びの幅が広がる。 食事や着脱など簡単な身の回りの活動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で出来る事に喜びを持ちながら、生活に必要な基本的な生活習慣を身につける。 戸外遊びを十分にこなすため、集団での遊びを通じて、体を動かすことを楽しむ。 自分の体調の変化に自ら気づき訴える。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で出来る事の範囲を広げながら、生活に必要な基本的な生活習慣や態度を身につける。 危険について気づき、それを避けることが出来るようになる。 自分の体調の変化に自ら気づき訴える。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な道具を使用し、複雑な運動や集団的な遊びを通して体を動かす事を楽しむ。 健康の維持や安全の確保に必要な習慣や態度を身につける。
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの子どもが生活の中で、保育者との安定的な関わりを通して、情緒的な絆を構築し、深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者と一人ひとりのつながりの中で、安んじて生活する。 遊びを通して、子どもと相互の関わり合いをもつ。 身近な大人や友達に関心を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に遊ぶ楽しさを実感する。 徐々に幼児クラスの友達と関わりを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と協調しながら遊ぶ事を楽しむ。 異年齢クラスでの年上の友達と関わる事に興味を持ち、関わりを楽しむ。 道徳心の芽生え 	<ul style="list-style-type: none"> 集団生活の中で、主体性を持って行動すると共に、自らを抑制する心もち、友達や保育士との関係の中で、そのバランスをはかるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 更に積極的に集団での活動に参加する中で、目的達成に向け、リーダーシップをとるようになる。 他者を尊重したり、役割分担を自ら行なえるようになる。 仲間一人一人としての自覚を持てるようになる。
	環境	<ul style="list-style-type: none"> 感覚の働きを豊かにしていき、その働きにより、人や物に関心する。 聞く・見る・触る等の経験を通して、好奇心が芽生える。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りのものに関心を持ち、さわったり、いじったりして遊ぶ。 動物園に興味を持ち、色や形に興味を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のまわりで起こる様々な事象に関心を持ち、積極的に関わろうとする。 動物園に興味を持ち、色や形に興味を更に深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然や動物園と関わる中でそれらと親しんだり、使ったりしながら十分に遊ぶ。 色や形の他、文字や数についても関心を示すようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然や動物園への興味を深める中で、親しみや関心を感じるようになる。 社会の事に興味を持ち、色や形の他、文字や数についても関心を示すようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然や動物園への興味を深める中で、親しみや関心を感じるようになる。 社会の事に興味を持ち、色や形の他、文字や数についても関心を示すようになる。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 言葉を聞くだけでなく、また、言葉に反応する中で、発語の意欲が芽生える。 聴き取ったことの意味を表現することを楽しむ。 絵本に対する興味や好奇心が芽生える。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉を使うことを楽しむ。 生活の中で保育者に話しかけられたり、話したることを楽しむ。 絵本への興味や好奇心が増大する。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に必要な言葉を大まかに理解し、使用し始める。 絵本への興味から、自ら絵本を使って内容を理解しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉を使ってのやりとりがスムーズに行なえるようになる。 喜びを感じるようになる。 絵本などの内容を理解した上で、楽しむ。 文字や数字、記号、標識に興味を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体験したことや思ったことを言葉にして伝えられるようになる。 高本の読み聞かせを楽しむ。 多くの言葉や面白い回しを身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや、体験を整理して伝えることが出来るようになる。 絵本の読み聞かせを楽しむ。 絵本からイメージが広がるようになる。
	表現	<ul style="list-style-type: none"> 表情の変化や体の動き、発語等で欲求を表現する。 聞く・見る・触る等の感覚の働きを豊かにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉を使って意思を伝えようとする。 身の回りの様々なものを模倣する。 興味のあることや体験した事を遊びの中で表現し始める。 季節感や素材に興味を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの様々なものを模倣する。 興味のあることや体験した事を遊びの中で表現し始める。 季節感や素材に興味を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々なものを見たり、聞いたり、触れたりする中で、おかしさ、おもしろさ、楽しさ、不思議さを感じ、表現しようとする。 感じたことや体験した事を歌や動きを通して表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近なものや社会現象への興味を深まりに伴い、それらを模倣したり、感じたことを表現するようになる。 様々な知識や経験を活かし、創意工夫を重ね、多様な手段で表現する。 	
食育	<ul style="list-style-type: none"> 安心と安らぎの中でミルクを飲む心地よさを味わう。 様々な食べ物を食べて、触って、味わって、自分で進んで食べようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> おしゃべりしながら、食べる事で満たされた心地よさを体験する。 様々な食べ物を食べて、触って、味わって自分で進んで食べようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な種類の食べ物の調理を味わい、食べた心地よさを体験する。 保育士や友達と一緒に食べる楽しさを味わう。 食生活に必要な基本的な習慣や態度に関心を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育士や友達との和やかな食事を体験し、安心感や信頼感を高める。 栽培・調理に関心を持ち、簡単な準備を楽しむ。 食事に必要な基本的な態度や習慣を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> 栽培・収穫・調理などを通して全ての命を大切にすることを学ぶ。 健康と食育の関心に関心を持ち、食育の習慣やマナーを身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の健康に関心を持ち、必要な食品の種類や働きを知り、進んで摂ろうとする。 産地から産物・加工過程を知り、携わる人に感謝の気持ちを伝える。 食育の習慣やマナーを身につける。 	
子ども達が安心して過ごすことの出来る場所を提供していくだけでなく、子ども達の個性を大切に、のびのびと成長することが出来る環境設定をおこなっていく。そして、子ども達のもっとも身近な大人の一人として、また、人間の基礎をつくる大事な時期に多くの時間を関わる者としての自覚を持ち、子ども達の範となるような言葉かけや動きを実践する。その上で、子ども達がやさしさや思いやりを持ち、更には基礎的な生活習慣を習得し、ルールの大切さを自分自身で感じられるような保育を心掛けていく。		0歳児 (たんぽぽ組)	1歳児 (ちゅーりっぷ組)	2歳児 (あじさい組)	3歳児 (さくら組)	4歳児 (ふじ組)	5歳児 (ひまわり組)
保育士の関わる姿勢		<ul style="list-style-type: none"> 生きる喜びを子ども達と共有し、常に子ども達がゆったりと安心して過ごすことのできる環境設定を心がける。 自分の成長に合わせてそれぞれの生活リズムを大切にしながら保育を行なう。子どもと目を合わせながら常に言葉かけを行なう。体調の変化を見逃さず、保護者の方と共に専門職として子どもの成長を見守る。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの気持ちを尊重し、子ども達が興味をもって取り組むことができる活動を計画する。特に遊びの場にはこれらを行なうことを言葉にして、子ども達の理解を促しながら、丁寧な関わりの中で子ども達が自分で出来ることを増やしていく。 友達同士の関係をあたたかく見守りながら必要に応じて、その助けとなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分でやりたいという子どもの思いを大切に受け止めながら、積極的に自分自身で取り組んでいけるように工夫し、出来たときにはその喜びを子ども達自身が実感できるように喜びを共有する。 人としてのマナーや生活習慣を無理なく身につけられるよう配慮する。 また、物事の態を適切な言葉を使い、わかりやすく伝えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 園での生活や遊びを通じて、自分一人で生きているのではなく、多くの人々との関わりの中で生活していることが実感出来るよう配慮する。 その上になら、社会的生活を遂げていくには様々な決まりごとがあり、しだいにとしなくてはならないこと、また押し通してはいけないこと、他者に耳を聞かなくてはならないことを実例を挙げて感じられるよう工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達が興味をもって取り組める課題を設定すると共に、展開のある保育を実践する中で、子ども達の想像力や創意工夫を促していく。 基礎的な生活習慣の確立を目指し、できたときには喜びを分かち合い、できなくても取り組む姿勢を評価し、励ましていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達の自主性を尊重し、遊び込む環境設定を行なう中で集中力を養っていく。 特に集団で取り組む課題については、子ども達自身で話し合い、意見の集約が出来よう。 保育の中で子ども達を褒め、励ましていく。 たくさん経験をする中で、子ども自身が自信を持って就学を迎えることが出来るよう配慮する。
家庭との連携		<ul style="list-style-type: none"> 安定的な保育の実現には、緊密な家庭との連携が不可欠である。よって出来る限りの情報公開と説明責任を果たす中で、家庭と園が同じ方向性をもって子どもに関わる事が出来るように最大限努めていく。 → 具体的な取り組み～個人別保護者懇談会・家庭と園との共通目標シート・保育参加・誕生会・各種おたより・連絡帳等 					
健康支援	<ul style="list-style-type: none"> 日々の視診 継続的な発達記録の作成 定期的な検診 感染症等への適切な対応 保護者への保健情報の提供 歯科検診 	<ul style="list-style-type: none"> 研修計画 	<ul style="list-style-type: none"> 保育指針や園の理念、保育目標等に対する園内研修 個人別目標シートに基づく個々の研修計画の作成 				
衛生管理	<ul style="list-style-type: none"> 安全・衛生管理マニュアルの作成と確実な実施 チェックリストの活用 害虫駆除、布団乾燥 衛生推進者の選任 	<ul style="list-style-type: none"> 特色ある保育 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活を大切に保育 四季折々の自然を感じる事の出来る保育 本物を感じる事の出来る保育(クラシックコンサートの開催) 絵本の取り組み・就学前の特別指導 				
安全対策 事故防止	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の避難、消火訓練 消防点検 救急救命講習の受講 ヒヤリ、ハットシートの活用 	<ul style="list-style-type: none"> 地域との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者施設との連携 職業体験の受け入れ 祭りへの職員参加 近隣保育園との交流 小学校との連携 				
保護者・子育て世帯への支援	<ul style="list-style-type: none"> 保護者懇談会の実施 育児相談事業 絵本貸し出し事業 子育て関連情報の提供 年長児の保護者と新一年生の保護者との交流会 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価 	<ul style="list-style-type: none"> 園全体の評価(期別・年間) クラス毎の評価(期別・年間・月間・週間・毎日…日誌) 保育士自己評価(期別・年間) 				
発達過程とクラスの相関性		基本的社会的責任		地域の実態に対応した事業		保育時間	
0歳児から5歳児まで、年齢別に6クラスの編成をとる。その中で3・4・5歳児については、年齢別クラスを基本としながらも、異年齢交流を重視した活動を積極的に取り入れる。合わせて、乳児と幼児の関わりも大切にする。		法令の遵守をはじめ、人権の尊重、プライバシーの保護を重視する。また、直接契約を行なう事から情報公開・説明責任を果たして行く事も徹底して行なう。また、地域の社会資源として、職業体験などを積極的に受け入れる。		保護者の多様な動き方に対応し、可能な限り、要望や意向に沿うよう努めている。また、保育の専門性を地域に還元していく事業を積極的に展開している。(子育てイベントへの保育士派遣・絵本の貸し出し、子育て相談等)		7:15～20:15 (日・祝・年末年始を除く)	
						主な行事	
						お花見散歩・子どもの日・七夕・運動会・クリスマス会・豆まき・ひな祭り・遠足(春・秋)・誕生会・おじいちゃん・おばあちゃん会・クラシックコンサート	